くらふと
県育協だより

発行
鳥取県子ども家庭育み協会
広報委員会
第42号

人口減少「少子化社会」における保育

鳥取県子ども家庭育み協会 会長　大橋　和久

2024 年の日本における人口の出生数は約 68 万 6 千人であり、特殊合計出生率も 1.15 となり過去最低であることが公表されました。鳥取県においても人口が本年８月現在、約 52 万８千人となり出生数も減少の一途を辿っています。全国的に入所児童の減少による休園、廃園を余儀なくせざるを得ない施設が増加しつつあります。鳥取県においても少子化による入所児童の減少が著しく、閉鎖せざるを得ない保育所が続出しています。

これらに対し国は少子化対策としての子育て支援のための施策を講じ、保育料の「無償化」や直近の「こども誰でも通園制度」さらには保育所等の地域における子育て拠点としての役割を担うことへの明確化など矢継ぎ早の対策を打ち出しています。鳥取県においても平井知事を先頭に人口減少や少子化打開のための多面的な課題解決に向けて具体的な議論や政策を打ち出そうとしています。

しかし、有識者の多くが現在の少子化、人口減少は留まることはなく、この傾向が続くことを予想しています。今、我々保育関係者はこれらのことを念頭に保育現場をどうするか真剣に考えなければならない大きな岐路に立っているのかもしれません。経営や運営のための一つの手段として地域の実情や出生状況の把握、予測、さらには地域の発展度や人口構成など考慮して入所児童の定員の変更や地域が必要とする児童福祉事業をはじめとする福祉サービスへの転換、多角化・多機能化への進出、変革が必要になっているのではないでしょうか。

一方、我々の保育現場においては「改定保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を拠りどころにし、さらには各々の法人、施設が有する理念の下、一層の教育・保育の充実を図ることが重要課題の一つであることに間違いありません。

昭和 23 年（1947 年）に制定された児童福祉法に児童福祉施設として位置付けられた保育所は戦後の混乱期、子どもたちへの心身の発達保障を旨とする児童福祉施設としての色合いが強く、又働く保護者に代わり家庭の補完的機能が求められてきたことは誰もが認めるところです。しかし「改定保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が採り入れられ、時代の変遷とともに「養護」はもとより「教育」の場としての役割が強く求められている現在、このことを重要視しなければならないと思います。

2024 年度に行われた全国学力・学習状況調査で小中学生の学力低下が公表されました。背景として新型コロナウイルス禍による授業の制約や家庭でのスマホやゲームなどに費やす時間が増え、勉強時間が減っていることが挙げられています。その他いろいろな要因があると考えられていますが、とりわけ自主的に学ぶ力や学習意欲が著しく低下していることが指摘されました。

現在、保育所・認定こども園は小学校への接続・連続性が重要な一つの目標にされ、その役割を注目しておく必要があると思います。我々がかかわる乳幼児期の子どもたちにとって人が育つ上でその根幹をなし、幼児期（就学前）が子どもたちの学ぶ原点となり、その後の学ぶ意欲を培う最も重要な時期であることは現代の世界中の教育学者の意見が一致しています。フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー、レッジョ・エミリア等々それぞれの考え方、アプローチの方法は異なれど本質は幼児期の遊びを通じて個々の自主性、主体性、知的好奇心、感性を育む教育思想であると思います。

保育者にとって今、本当に大切なことは個々の子どもの年齢に沿った「発達過程」を理解し、客観的に認識し、根拠性を基に個々の子どもたちの発達にとって「適切な時期」に「必要な働きかけ」をすることが保育者の専門性であり、それを行えることが重要な資質ではないでしょうか。

鳥取の保育園
私たちの園

南部町立
ひまわり保育園 園長
佐々木美和
（ささき　みわ）氏

所在地：鳥取県西伯郡南部町市山 746-1
定　員：60 名（0 ～ 5 歳児）

― 第14回 くらふと広報誌からの保育園紹介 ―

南部町立 ひまわり保育園

昭和58年に改築された、定員60名の保育園です。地域に根ざした保育園で、地域とのつながりをとても大切にし、様々な交流活動を行っています。また、園周辺は南部町の特産である柿畑や豊かな自然に囲まれて、四季を通じて自然体験をすることができます。

保育理念

『一人一人が認められ、大切にされ、安心して育つ環境をつくりだし、生きる力の基礎を培う』

保育目標

- 興味・関心を広げ、意欲的に取り組む子ども
- 友達と自ら関り、思いやりのある子ども
- 安心できる環境で生活し、力いっぱい遊ぶ子ども

“集団生活を通して様々な経験をし、自立心を持ち、健康的で情緒豊かな人間性を持った子ども”に育っていくように、年齢に応じた遊びを楽しんだり季節に応じたワクワク体験をたくさん経験したりするよう職員間で連携しながら保育を進めています。また、小規模園の良さを生かして、同年齢のみではなく異年齢の子どもたちとも関わって遊べる機会を持ちながら、更に園内の子どもたちが自然に関わる経験を様々な場面で持てるように努めています。

園を知る３つのポイント

① 緑や自然と親しみ遊びが広がる園庭

園庭の芝生の上で、のびのびと体を動かして遊んでいます。園庭の築山を登ったり走ったり、木によじ登っては木の実探しや虫探しに夢中です。また、秋には職員と地域の方で竹をとり、年長児の竹馬を祖父母交流で作ってもらいます。広い園庭で竹馬に挑戦することで、非認知能力を育んでいきます。

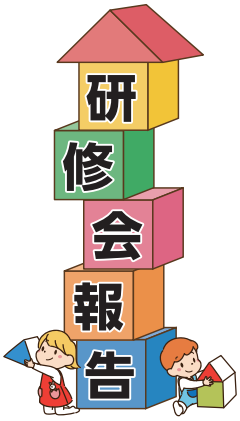
② 仲間づくり（自然に関わりあえる子どもたち）

各クラス集団のみならず、園内の子ども同士が関わることのできる環境作りを機会を捉えて行っています。友だちや異年齢児との関わりのなかで、相手の様子を知ったり関心を持ったりしながら、自然に関わり合える集団を目指しています。人と関わることの楽しさや異年齢同士の関わりを経験することで、会話をとおした遊びがつながり、仲間が広がり、コミュニケーションが深まるなかで、自然と思いやりや自己有用感を得られることを期待して活動しています。

③ 地域と共に育つ（地域交流・保小交流）

地域振興協議会の方と七夕交流・芋ほりをしたり、地域の方から野菜や果物をいただいたり、ラジオ体操指導員の方に毎年プール開きの前に教えていただいたりと、地域の方の温かさに触れ、地域の良さや地域の方への感謝の気持ちを育てています。

また、保小交流では、年長児が地域の２つの小学校との交流を年に10回程度計画しています。それぞれのねらいのもと、小学生や学校に親しみを持ち、楽しんで交流することで、小学生に憧れを持ったり入学への意欲を高めたりしています。また、職員同士が回を重ね、顔の見える関係を築くことができ、共通理解を深めることができています。



令和7年度　日本保育協会
中国・四国ブロック研修会に参加して

鳥取県子ども家庭育み協会　副会長
日本保育協会鳥取県支部長　村岡　亜樹

標記の研修会が、今年は7月17日㈭と18日㈮の２日間、岡山市 岡山プラザホテルにて県内外１２０余名の参加をもって開催されました。

この会は、中四国ブロックの８県が輪番で企画・運営を行っており、鳥取県は来年度の開催県となるため、県下より８名が出席してきました。

１日目は開会式の後「行政説明」として、こども家庭庁 成育局 保育政策課 成育基盤企画課 教育・保育専門官 馬場耕一郎氏より「保育行政の動向と課題」と題してお話がありました。

こども家庭庁の設置経緯や役割、基本姿勢などから始まり、こども基本法やこども大綱について、また「はじめの１００か月の育ちビジョン」にも触れられ、この１００か月という期間は、誕生から架け橋期の１年生までを指し、人格の基盤を築く大変重要な時期であるということを改めて強調されました。

また、こども家庭庁発動で、保育士等の業務負担軽減につながる具体的な提案をされていたり、保育士という職業への興味や関心を若者に深めてもらうため、中高生に向けた「保育士の魅力向上プロジェクト」というYouTube動画を数多く発信されていることを聞き、保育士不足対策として今の若者たちにわかりやすく効果的な形で、伝えておられるということを知ることができました。

その後休憩をはさみ、講演Ⅰとして大阪公立大学 名誉教授の関川芳孝氏が「持続可能な社会福祉法人経営に向けて、今、何をすべきか」という演題でお話をされ、人口減少が及ぼす影響として、「岡山県内の消滅可能性自治体」の分析データを示され、それを持続可能にしていくために、保育園はどんな役割を果たしていくべきか、どんな経営であるべきかを繰り返し話され、今後ますます悪化していくであろう、防ぎようのない社会現象を前に、重い危機感が募りました。

２日目は「本部活動報告」として、日本保育協会 理事長 吉田　学氏よりお話があり、加速する人口減少（入所児童の減少）を受けて国・自治体・保育事業者の三者に向け、それぞれに具体的な提言をされました。

保育事業者に向けては、保育の質を高め、子育て家庭への支援を充実させること。多機能化に対応し地域の中でリーダーシップを取っていくこと。SNSを活用し、保育所の存在意義を高めていくことなど、するべきことが山積しており、さらなる工夫や積極性が求められていることを痛感しました。

その後の講演Ⅱでは「発達にふさわしいインクルーシブ保育」として島根県立大学の水内豊和氏より〝子どものできた！をわかるための〟〝子どものできた！を支えるための〟具体的な関わり方について、事例をとおしてお聞きすることができ、インクルーシブ保育を前提とした子どもの発達理解をより深めることができました。場面ごとに隣の方と意見交換をする時間もあり、和やかでにぎやかな学びの多い研修となりました。

その後、次期開催地である鳥取県から来年度の研修開催日、内容等を伝えさせていただき再会を誓いながら、盛況のうちに本研修会の幕が閉じられました。

日保協鳥取県支部は、今年度さらに会員数が減っている所ですが、計画性を持ち、よい連携を取りながら、力を合わせて令和８年度大会※に臨みたいと思います。

※令和８年度日本保育協会
中国・四国ブロック研修会
【期日】令和８年11月５日㈭
～６日㈮
【会場】エースパック未来中心
小ホール

第1回食育研修会

車尾保育園　福山　照美

第1回食育研修会が6月16日㈪から6月25日㈬までオンデマンド配信され、「保育園におけるアレルギー対応」をテーマに、一般社団法人母子栄養協会代表理事で管理栄養士の川口由美子氏による動画講座を受講しました。

冒頭では近年のアレルギーの動向について説明がありました。以前は鶏卵・牛乳・小麦が主な原因食品でしたが、２０２４年の調査ではクルミやナッツなどの木の実類が2番目に多くなっているとのことでした。これは郷土料理や市販のお菓子、ゴマだれなどに使用される機会が増えたためと考えられています。また、魚卵のイクラも増加傾向にあり、回転ずしの利用拡大によって低年齢児が口にする機会が増えたことが要因とされていました。このように食生活の変化が食物アレルギーの発症にも大きく影響していることを学びました。

一方、保育現場においては、アレルギー対応委員会を設けて子ども一人ひとりに応じた組織的な対応を行うことが重要であると述べられていました。医師が記入した生活管理指導表をもとに、子どもの安全を最優先に考え、クラス内で共有されたマニュアルに沿って給食を提供することが重要です。特に担任不在時や土曜日などのイレギュラーな場面では事故が起こりやすいため、十分な引継ぎが欠かせないと強調されていました。

調理室においても、除去食品の誤配や誤食を防ぐための体制づくりが求められます。多数のアレルゲンが存在するなかで、調理することはリスクが高いため、献立作成の段階から考慮する必要があります。アレルギー除去食は「提供するか、しないか」の2択で、シンプルに管理することが望ましいと学びました。

今回の研修をとおして、給食は「安全性」を最優先しなければならないと改めて感じました。保護者との情報共有はもちろん、調理室だけでなく保育室を含めた園全体で体制を整え、事故のリスクを減らしていくことが大切です。今後もチームとして連携しながら、子どもたちに安心でおいしい給食を提供できるよう努めていきたいと思います。

保育士研修会

ねむの木保育園　平山　美知世

7月10日㈭に保育士研修会がエースパック未来中心にて開催されました。講師に鳥取短期大学幼児教育保育学科 教授 國本真吾先生をお迎えし、「『不適切保育』を防ぐために考えたいこと」と題して、ご講演をいただきました。

今回のご講演では、不適切かどうかよりも保育のあり方そのものを考えていくことが大切であるということを話されました。保育所保育指針に示されている子どもの人権・人格の尊重の観点に照らしながら、子どもの最善の利益を第一に考え、保育者自身が人間性と専門性の向上に努め専門職としての責務を果たしていくこと、また保育者同士、職員集団として高め合っていくために、様々な立場を越えて語り合うことが大切であると聞き、専門職として自分の保育に対し向き合う機会となりました。

講師の國本眞吾（くにもとしんご）先生

昨今、子どもや家族の多様化によって新しい対応や技術が求められるなか、私たち保育者もアップデートの努力をしていく必要があります。そして日々の実践を振り返るなかで、「あの関わりが良かった」「ここはこうした方が良かった」などと考察しながら職員同士思いを確認し合い、横のつながりのなかで保育者として成長していけるような職員集団であることが、不適切保育を防ぐことにつながるのだと再確認することができました。

今まで当たり前にやってきたことで「～でなければならない」と子どもを枠にはめようとしたり、子どもの思いが表れているのに保育者が自分の思いを押しとおしてしまったりするような場面があったかもしれません。枠にはめてしまう形になると、虐待や不適切な対応に陥りやすくなり、大人になってからのしんどさにつながることになるというお話がありました。これまでの〝当たり前〟や自分の物差しを見直していくこと、また私たちの関わり方が子ど

もたちの将来にどのようにつながっていくのか想像していくことの重要性を改めて感じました。

専門職として子どもの発達をよく理解し、一人一人に合った関わり方、目線の高さを同じにした関わり方をいつも考えていきたいと思いました。そして、今まで当たり前にやってきたことや自分の価値観を見直すためにも、保育について議論ができる、風とおしの良い職員集団となるように、自分にできることは何かを考え周囲に発信していきたいと思います。

初任・初級保育士研修会①

美保保育園　山本 和宏

7月17日㈭に青年部会担当の初任・初級保育士研修会が開催されました。講師の保育のデザイン研究所上席研究員の川辺尚子先生による〝子どもの育ちや学びを語り合い、保育を可視化しながらより豊かな保育を実現する〟をテーマに、研修会①では「保育の中で大切にしたいこと」を教えていただきました。

子どもの発達を支える保育は「物・人・事柄」の環境が大切であり、活動をできる・できないと捉えるのではなく、環境との相互作用をとおして資質や能力が育まれていくということを学び、参加者は自園の子どもたちの姿についてグループに分かれて考え語り合いました。あるグループでは、「2歳の姉は家から妹相手に保育園で行った活動をして遊んでいる。担任の先生の口調などを真似る姿が微笑ましいと保護者から聞いた。大人（保育者）としての環境が大切であると感じている」と話し、意見を交わしていました。

後半は「子どもの今」を明日の保育につなげるために、保育者の願いを込めた環境を構成する一つとして写真の活用方法を学びました。日常の保育のなかで保育者として心が動いた瞬間に写真を撮ってみようと提案され、写真記録（ドキュメンテーション）を作成することで自身の保育を振り返ることができ、さらに保育者同士や保護者との共通理解にもつなぐことができることを学びました。参加者は自園の子どもたちを思い出し、〝異年齢での子ども同士の関わり〟〝自分でしたいという気持ち〟〝挑戦する気持ち〟など「大切にしたい子どもの姿」をグループ同士で話し合っていました。

次回は各グループで話し合った「大切にしたい子どもの姿」をもとに、各自が撮ってきた写真エピソードを語り合います。参加者の皆さんが子どもたちのどんな姿に惹かれ写真を撮り、語り合うのか、次回の研修会②、③が楽しみです。

講師の川辺尚子（かわべなおこ）先生

第1回　障がい児保育研修会

箕蚊屋保育園　角田 唯

7月26日㈯エースパック未来中心にて、「こどもの可能性を花咲かせるための特別支援教育～教育相談や事例をもとに～」と題し、北栄町立大栄小学校・特別支援教育主任・知的障がい学級担任・自立活動エキスパートの山内章平先生にご講演いただきました。

「障がいを持っている」この言葉を聞いてあなたはどう思いますか？「障がいは個性」この言葉を聞いてあなたはどう思いますか？研修の冒頭に山内先生から、このような問いかけがありました。この質問をとおして、自分自身が普段、「障がい」をどのように捉えているのかを考え直す機会となりました。そして、障がいをハンディキャップ（不利なこと）ではなく、ギフテッド（与えられた個性）として捉えることの大切さを感じました。

講師の山内章平（やまうちしょうへい）先生

「子どもたちのたくさんのつぼみ（可能性）を、周囲の人（親や教師等）が見つけ照らすことで、素敵な花（その子にしかできないこと）が咲くことができる。」山内先生は、以上のことを〝つぼみ教育〟と提唱されておられました。

子どもの学びにとって重要なことは実体験であり、体験をとおして予測し実際にやってみることで、自ら学び、理解が深まること、そして必要な支援と自分でできることを明確にし、子どもが自ら行動することを「待つ」ことが、より子どもの主体性の育ちになることを学びました。

一番心に残ったことは、「人は残りません。目指すのは、誰でもできる支援・ツールがあれば一人でできるように支援すること」という山内先生の言葉でした。

特別支援教育とは、困難をすべて取り除く支援ではなく、子どもの可能性が花開くために必要な支援をすること、必要なときはあえて困難を乗り越える機会も必要である。というお話を聞いて、得意・不得意も含めて子どもの持っている可能性を引き出すことが私たちの役割であり、何よりもその可能性を信じることが大切であると感じました。

第1回 乳児保育研修会

あがりみち保育園　鈴木 留美

第1回乳児保育研修会が8月29日㈮エースパック未来中心にて開催されました。広島都市学園大学 子ども教育学部・非常勤講師の田丸尚美氏を講師に「人と関わる楽しさを育てる～絵本を通して・言葉を交わして～」と題して、ご講演いただきました。

子どもの発達において、好きな人に向ける気持ちの育ち（愛着形成）の理解から子どもの心に思いを寄せることの大切さについてお話がありました。物への興味や関心を持つための〝触ったり〟〝持ったり〟〝鳴らしてみたり〟などする探索活動は、子どもが想像力を育むための第一歩です。そして、相手と自分が違うことに気付き始め自我が芽生えていきます。自我の要求を相手に受け止めてもらうことで気持ちをコントロールする力を育んでいくということを再認識しました。

子どもの発達とは、「自分の世界を広げ、可能性（自分のやりたいこと）を広げる過程」「自由を獲得していく過程」において、主体的になり、自分で変わっていくこと。そのなかで、「したいけどどうしたらいいかわからない」という、思うようにならない発達的な矛盾も生じる。子どもはどんな気持ちで大人に甘えているのかを理解すること、愛され守られることで安心して過ごせる環境を作ることが大切なのです。

絵本「いないいないばぁ」を例にしながら、絵本をとおして人と関わる楽しさについて話をされました。子どもはページをめくることで絵本が生み出す言葉を聞くことの心地良さを経験でき、大人は子どもの仕草や表情などの変化を感じることができるのです。絵本に手を伸ばして触ってみたり、絵（イラスト）を見て〝ばぁ〟と声を発したり、大人（読み手）と見つめ合ったり、手で「ばぁ」と真似してみたりすることを繰り返し楽しむなかで、〝子どもと大人が心を通わせ合い、楽しさを共有していくことが大切であり、愛着関係を作るもとになる〟ということを改めて確信しました。

講師の田丸尚美（たまるなおみ）先生

今後も、近くにいてくれる大人が大好きと感じながら子どもが安心した気持ちで自己発揮して過ごしていけるよう、子どもの思いに寄り添う保育をしていきたいと思います。

鳥取県保育士・保育所支援センターからのお知らせ

保育現場の皆様には日頃より本センター事業について御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

本センターの実施事業（鳥取県委託事業）の一部を掲載しています。その他の事業についてはホームページ、Facebook にも掲載しています。御不明な点はお気軽にお問い合わせください。

取り組み

保育のおしごと体験（中学・高校生向け）〔11月にも実施予定〕

県内の中学生や高校生を対象として保育所等で子どもたちと一緒に過ごすことにより、保育という仕事の魅力を体感してもらい、保育士という職業が将来の選択肢となることを目的に開催しました。

本年度は、保育園・認定こども園計 33 施設において、７月29日㈫・31日㈭、８月５日㈫・７日㈭、11月４日㈫・21日㈮の６日間、延べ 87 施設に 209 名もの参加申込をいただき、このうち夏休み期間中に 181 名が参加しました。

午前中には絵本の読み聞かせ、椅子取りゲーム、給食補助など子どもたちとふれ合い、午後からは園長先生や保育士の方々と体験を振り返りながら、仕事のやりがいや魅力についての貴重なお話を伺いました。

参加者からは「一人一人に向き合った仕事はすごいと思いました」「子どもたちの成長を近くで感じることができるのはやりがいがあると感じました」などの感想が寄せられ、貴重で有意義な体験となったようです。

今回の体験を将来の職業を考える際に、是非、思い起こしてもらい、一人でも多くの生徒が保育士を目指してくれることを願っています。

また、園の皆様には多くの生徒を快く受け入れていただきありがとうございました。

７月31日　白ゆり保育園

７月31日　いづみ保育園

８月５日　上北条保育園

保育の出前説明会

若手保育士等が先輩として学校を訪問し、仕事のやりがいや魅力などについて直接語りかけることで、中学生や高校生に自らの将来をイメージしながら職業選択の参考としてもらうことを目的として実施しています。

今回は７月18日㈮に県立米子高等学校 20 名の生徒に認定こども園よなごベアーズの若手保育士からわかりやすくお話ししていただきました。

保育の魅力発信フェス

去る８月10日㈰アイエム電子こどもの国にて、鳥取市男性保育士会「じゃんぐる☆じむ」との共催で保育の魅力発信フェス「あつまれ！げんきだ！サマーキッズコンサート」を開催しました。

あそびのコーナー（けん玉、コマ、缶バッジをつくろうなど）、おはなし会、コンサートをとおして、参加の親子、家族連れなどの方々とふれあいました。

また、当日は、保育士のお仕事を知っていただこうと、保育に興味・関心のある高校生のボランティア 16 名に協力をいただきました。高校生ボランティアからは「今回の経験を通して自分の将来について考えることができてよかった」「子どもたちと関わることで保育の楽しさなどを感じることができた」「保育士さんたちの子どもに対する接し方がかっこよく、保育士になったら真似したいと思った」などの感想が寄せられました。

参加された高校生ボランティアが子どもたちに積極的に声をかけ、様々な人とふれあう姿を見て、この経験を将来の夢の実現に役立てていただきたいと思いました。

保育に関心のある幅広い人材を応援！

保育の魅力発信

行政機関、保育士養成校、保育に携わる団体などが協働し、若者や保護者をはじめとする県民の皆様に保育に対する理解を深めていただけるよう、以下のとおり米子市との共催により開催することを計画しています。

と　き　令和７年12月20日㈯ 10：30 ～ 12：30

ところ　米子市福祉保健総合センター（ふれあいの里）

テーマ　「保育の魅力発信 クリスマス・マルシェ’25 in Yonago ！」(仮題)
保育のあれこれを「見て」「聞いて」「触れて」魅力を発見しよう! ～一緒の時間に魔法は起きる?!～

お知らせ

研修会

新人保育士等を対象に講義や意見交換を行い、日ごろの保育の質を振り返ることにより保育士として成長していく機会とするとともに、不安や思いを共有し新人保育士同志の横のつながりの構築や、実際の保育業務への理解を深めることにより、職場定着の促進を図ることを目的に開催します。

日程等　**東部**：令和７年12月　３日㈬　県立福祉人材研修センター
中部：令和７年12月　２日㈫　エースパック未来中心
西部：令和７年12月22日㈪　米子コンベンションセンター

講　師　ヘルスプロモーションサポートオフィス　開業保健師　渡部 一恵 氏

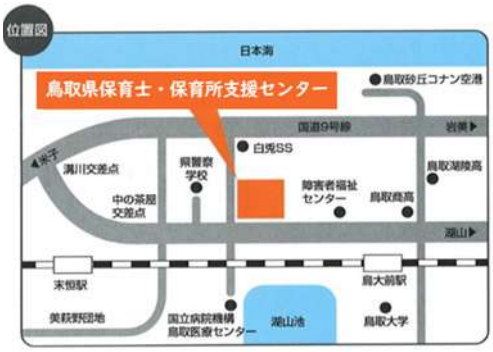
※詳細については、別途、御案内します。

現場で働く保育士をサポート！

保育のお悩み相談・メンタルヘルス専門相談

仕事や家庭の悩み・困りごとなど…誰かに聞いてもらうことで気持ちが楽になり悩み解決のきっかけになることがあります。まずは話してみませんか（来所は要予約）。

保健師にお繋ぎし、専門的なアドバイスが受けられる「メンタルヘルス専門相談窓口」も開設しています。事業主の相談もお受けしています。



社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会
鳥取県保育士・保育所支援センター
〒689-0201 鳥取市伏野 1729-5 県立福祉人材研修センター内
TEL 0857-59-6342　FAX 0857-59-6341
Ｅメール　hoikucenter@tottori-wel.or.jp
ホームページ　https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/3/
フェイスブック https://m.facebook.com/tottorihoiku/

利用時間／月曜日～金曜日 8:30 ～ 17:00（祝日・年末年始は除く）
担当者が不在の場合もありますので、来所の際は事前に御連絡ください。

こちらでも情報発信中！

ホームページ　facebook

うっちー先生のえほんばなし⑭

児童発達支援センター勤務が長かったため、幼稚園に異動して 10 年ぶりに 5 歳児クラスを担任しています。クラスの中で本を読みます。いや、そんなものじゃない。読みまくっています！！

10 年という年月で、子どもを取り巻く環境は大きく変わっていますが、子どもは変わってないなぁという実感があります。ここ数年のデータを調べると、動画投稿サイトや動画サブスクリプションの再生時間がコロナ禍を経て激増しています。楽しいことがどんどんと流れてくるから夢中になる気持ちはよくわかります。上手な付き合い方をしていくことが大切だと言われています。

考えていきたいのは、コロナ禍を経て成長してきた幼児に何が起こるのか！？ということです。

※ここからは自分の実感していることです。あくまで個人の感想ということを考慮して読んでいただけたらと思います。

〈目で【見る】ことで情報を得る〉中心の生活になるのではないのだろうか。

実感したのは昨年度、学童保育に本を読みに行ったときでした。『5分で落語のよみきかせ』(PHP 研究所 /2005 年) を子どもたちと読みました。すると、さっきまで絵本をワイワイ楽しんでいたのに、急に退屈な様子。少しだけある挿絵を見せるとすごく食いついてきますが、それ以外はなんだか上の空。学童の先生も「絵がないとちょっと楽しくないかも」と。私の語りが上手くなかったことも十分に考えられますが、10 年前に年長児たちと楽しみながら読んでいた思い出と比べると…ちょっと違っていました。

長年、素話を実践してこられた絵本専門士養成講座の講師である図書館司書 伊藤明美氏の

【子どもたちの耳を育てる】

という言葉があります。認知能力的視点で見ると、お話を楽しんでいく中で、傾聴する力を育てていくということだと思います。〔傾聴力〕は一生大切になる力です。非認知能力的視点で見ると、絵本と共に、よりイメージの世界へとんでいくことができる幼年童話。それを友達と一緒に楽しんでいく経験を積んでほしい。集団で一緒に想像の世界を共有する経験は、これからの読書の中でもそうそうありません。子どもの時の楽しい経験は一生を支える力となります。

今こそ！これからの時代こそ **【子どもたちの耳を育てる】** この言葉が大切な時なのではないでしょうか！！

絵本紹介㉖

『いやいやえん』

中川 李枝子　作 / 大村 百合子　絵　福音館書店 / 1962年

ちゅーりっぷほいくえんに通う主人公のしげるを取り巻く7つの話集。おはなしを通して主人公が成長してくわけではなく、ただただ元気いっぱいのしげるが元気いっぱいにやらかす内容に読者の子どもは、共感したりドキドキしたり笑ったり♪

お話に登場する『やまのこぐちゃん』『おおかみ』は『**ぐりとぐら**』(福音館書店 / 1967年) で森の仲間としてカステラを食べに来ています。それを見つけた時の子どもたちの喜びようはとてもかわいかったです。

今年度スタートしてからたくさんの絵本を読みつつ、初めに『**いやいやえん**』を読みました。1話目の『くじらとり』を読み始めましたが、楽しんでいる子ども半分、絵が少ないから楽しみ切れてなさそうな子ども半分。でも、最終話の『いやいやえん』の頃には、子どもたちはしげるの動向が気になって仕方ない様子。一冊を通して幼年童話を楽しみ始めました。60年以上前の本なので、時代背景や価値観が合わない、「赤チン」など知らないこともたくさん出てくる、などのありきたりな不安は一応ありました。しかし、子どもの**「楽しい♪」**は不変なのです。この本を選んでよかった！そのあとも名作に新作を取り入れながら、たくさんの童話を楽しんでいきました。

この後どうなっていったのか!?一年間を通しての読書変遷は、次回のえほんばなしにてお伝えいたします。この原稿をかいている時はまだ半年経過中なので、どうなっているのかは私自身にもわかりません。自分の選書力が試されます。子どもたちの姿に沿った保育展開をしていく。だから保育は楽しいのです！！

うっちー先生プロフィール　　鳥取市公立園の保育士。保育士 / ジュニアスポーツ指導員 / 絵本専門士
Ameba ブログ『絵本専門士うっちー先生の活動記録』保育士・幼稚園教諭向け総合メディア『ほいく is』コラム連載

お子さまの成長を安心して見守るために

キッズガード®

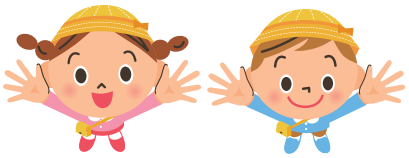
（こども総合保険）

特長1 団体割引適用 約50%割引（前年2024年度、加入者数5万人以上の割引率）
園が窓口の団体加入制度だから、団体割引・損害率による割引が適用されています。

特長2 24時間補償 ケガによる入院・通院は1日目から補償
ケガによる入院・通院など、園児をとりまく様々なリスクに対応した保障制度です。

特長3 ご家族の賠償事故も対象 国内示談交渉サービス付き
個人賠償責任補償は園児とご家族が対象です。

特長4 お電話一本でお支払い 簡単支払特急便
ケガによる入院・通院で10万円以下のご請求は、
お電話一本で保険金をお支払いします。
※ご利用にあたっては所定の条件があります。



株式会社キッズサポートインシュアランス
大阪府大阪市中央区船場中央3丁目2番8号船場センタービル8号館327号
TEL：06-4708-8815　FAX：06-4708-8858
※この広告は保険商品の特長をご案内したものです。詳細につきましては、パンフレット等をご覧いただくか、弊社までお問い合わせください。

編集後記

先日、県外で暮らす娘のところへ行ってきました。娘が通う大学やいつも買い物をするスーパー、友だちとよく行くカフェに寄り、娘の生活の様子にちょっとだけ触れることができました。相変わらず部屋は散らかり寝坊もするけど、初めての一人暮らし、頑張っているんだなーと実感！私も頑張ろう♪　（Y・M）

地球温暖化で夏は命の危険を感じる暑さとなり、春と秋は短くなってきました。保育を見直す必要を感じます。夏は室内遊びがメイン、秋に水遊びなんてことになるのかも…固い頭を柔らかくして、保育の中で子どもに必要な経験ができるよう工夫していきたいですね。　（O・M）

小学校の先生が保育体験に来られ、一つの遊びの中で育まれている子どもたちの沢山の力、その力を引き出す保育者の関わりに驚かれていました。環境をとおして行う教育。遊びをとおしての総合的な指導。遊びきる子ども！遊びきる保育者！を感じていただけたようです。　（H・M）

我が家には、ハムスターが3匹います。そのうちの1匹は、ゴールデンハムスター、あとの2匹は、ジャンガリアンハムスターです。手の上に乗って餌を食べる姿、ミニサークルで2足歩行する姿、巣以外の場所で、警戒心なく丸見えで堂々と寝ている姿は、何とも言えない可愛らしさ。3匹共性格がそれぞれ違っていて、観察していると面白いです。家族の一員として大切な存在。毎日癒されています。　（A・I）

園の畑で収穫したキュウリを塩もみしていると、『キュウリが熱中症になっちゃう！』と子どもたち。出てきた水分を見ての反応に、毎月の食育指導がちゃんと届いていることを実感した夏のひとコマです。　（T・F）

森の中にあるお宿に家族で泊まりに行きました。緑に包まれた空間は、心地よく、時間の流れが緩やかに進む感じがしました。普段、コーヒーを飲まないのですが、自然の中で飲むコーヒーは、やはり、只々苦かったです。　（K・N）

［全私保連推奨］各種団体保険制度

有限会社ゼンポ　公益社団法人 全国私立保育連盟　東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん
Web加入可能
保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん
Web加入可能
社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん
Web加入可能
在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん
Web加入可能
卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱代理店　有限会社ゼンポ
TEL：03-3865-3881
FAX：03-3865-2806

引受保険会社　東京海上日動火災保険株式会社
担当課支社：公務二部 文教公務室　TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付　費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先
公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店
有限会社ゼンポ　TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）

きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう
初期費用0円・登録者数無制限

＼すべての機能使い放題／
月額5,500円（税込）～

無料体験実施中！

お申し込みはコチラ

ご相談・ご質問はお気軽に
きっずノートサポートセンター　TEL 03-3865-3886